プリンセス
小公女セーラ

第8話

『ダンスの時間』

AR台本

企画
制作 日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第八話『ダンスの時間』

登場人物

セーラ……………島本須美

ミンチン……………中西妙子

アメリア……………梨羽由記子

ピーター……………坂本千夏

アーメンガード……………八百板万紀

ベッキー……………鈴木三枝
ラヴィニア…………山田栄子
ガートルート………佐々木るん
ジェシー……………飯塚はるみ
ロッティ……………渡辺菜生子
マリエット…………高木早苗
モーリー……………向殿あさみ

カメラ	画面		音声
1	↘BG・PAN 本を頭にゆっくり歩むセーラ		(アメリアの手拍子) 〜〜〜〜〜〜〜
2	手拍子をうつアメリア		〜〜〜〜〜〜〜
3	頭上に本をのせ、姿勢正しく歩く稽古をしている		〜〜〜〜〜〜〜
4	アメリア		アメリア「はい、〜 顎を引いて……足は爪先からすっと出すのですよ」
5	板のつぎ目にそって次々と通る足		〜〜〜〜〜〜〜
6	本が落ちそうになりコースをはづすロッティ 行進の間、本を追っかけるロッティ		←〜〜〜〜〜〜〜 (アメリアの手拍子)
7	さけぶアメリア		アメリア「ロッティ!!」
8	リンダ、ロッティにつまづき倒		

	れ飛ぶ O・L		
9	ダイアナの後に続くセーラ		（手拍子）→
10	アメリア		アメリア「アーメンガード、もっと姿勢を 正しく……でないと、 お行儀のいいレディになれませんよ」
11	セーラの後から、おどおどと前かがみのアーメンガード		
12	とたんに本を落すアーメンガード		
13	あわてて拾うアーメンガード		アメリア(off)「あらあら……本ばかり気にしてる から、かえって駄目なんですよ…… そうそう、セーラさんをごらんなさい あのように 姿勢正しく歩いてれば、本のことなん か忘れていても、おっことしたりする ものではありません……」
14	Uターンする列		
15	Uターンするセーラ		

16	キラッとセーラの方を見るラヴィニア　更に右方（アメリア）をチラと見る		
17	そっぽを向いて手拍子をうっているアメリア		
18	コースからそれるラヴィニア		
19	近づくセーラ ラヴィニアが急接近		
20	ラヴィニアの足、セーラの足をひっかける（スローモーション風に）		〜〜〜（手拍子の音、遅く異様に）
21	つんのめって……（スローモーション）倒れるセーラ		（ドサッ）
23	アメリア振り向いて		アメリア「おやおや、セーラさんも気をつけて」
24	なにくわぬ顔でラヴィニア、スッと列の中に戻る		←〜〜

	25	26	27
今更のように気付いたフリして立ち止まるラヴィニア、ジェーン、ガートルード 顔見合わせて冷笑	起き上がるセーラ 駆けつけるロッティとアーメンガード 本を頭上に歩きはじめる	遊戯室の外 室内で励生徒が見える	二階から階段を降りて来るベッキー、はっ！と前方を見て手摺りを背によける
（アメリアの手拍子）→	アーメンガード「大丈夫？ セーラ」 セーラ「ええ……」 ロッティ「（小声）私、見たわ。ラヴィニアが足を出したんだもん」 セーラ「（微笑）いいのよ、ロッティ」	S・E（手拍子の音やむ 鈴鳴る） アメリア(off)「次はダンスの時間ですから着換えて来るんですよ」 一同「ハーイ」 S・E（どたどた 扉の開閉）	

	ドヤドヤ階段を昇る生徒たち		（ドカドカ）
28	手前を昇って行く生徒たち 最後の一人を見送って 階段を下りようとする 下を見て、はっ！　となる		（ドカドカ）
29	階段の下のセーラ、止る		
30	ベッキー		
31	セーラ		
32	眼を伏せるベッキー		
33	間あって、昇っていくセーラ ベッキー、手摺に背をよせる		
34	うつむいているベッキー 近づくセーラ どぎまぎとするベッキー 急に辺りを気にして		セーラ　「ベッキー」 ベッキー「は、はい……」 ベッキー「あの、お嬢様方と口をきくと叱られますから……」

	頭を下げる		
35	と逃げるようにすり抜けて去る		
36	茫然と見送るセーラ		
37	重そうな足どりで行くベッキー		
38	セーラの寝室 セーラにダンス服の着換えを手伝っているマリエット		セーラ　「ね、マリエット……」
39	セーラ、立ったままで		マリエット「は……?」 セーラ　「教室のお掃除に来るベッキーの事だけど……」 マリエット「あの子がどうかいたしまして?」
40	セーラ		セーラ　「私達と口をきいてはいけないって、云われてるのかしら」
41	ひもをしめ終るマリエット		マリエット「ええ……学校の規則らしうございますから……」

42	セーラ		セーラ「まあ……」
43	鏡にうつるセーラ、衣類を見つめて鏡のいすの方来てすわる		マリエッタ「……それに、あの子は (off)まだ馴れないで失敗ばかりですから。 〜 院長先生も、なるべくお嬢様方の前に出させるなと仰言やったとかで」
44	リボンを結ぶマリエット		セーラ「可哀そうね……」
45	鏡の前の二人 リボンを結んでいる		マリエット「無理もございませんわ。 私も、新米のメイドの時は、半年も御主人様の前に出られない程でしたもの」
46	リボンをしあげるマリエット	~	セーラ「遠い所から来てるの？」 マリエット「ええ、ロンドンから大分離れた小さな村らしうございますよ」
47	セーラの全身を眺めて 手直し		マリエット「なんでも父親が亡くなって、幼い弟や妹たちの為に働きに出なければならなかったとかで」
48	セーラ、マリエット見て		セーラ「で、いつもどんな仕事を……？」

49	マリエット		マリエット「そりゃ、お嬢様には想像もつかない程 〜
50	セーラ ―O・L―		(off) 辛い仕事ですわ……」
51	暗い 早朝の地下作業場 水を汲むベッキー		マリエットの声「朝は暗いうちに起きて水汲みから、
52	玄関をはいつくばって拭く（ブラシがけ）ベッキー		〜 表のお掃除
53	台所で重い鍋を台にのせるベッキー		〜〜〜 それが済むと、お嬢様方の朝食の支度の
54	地下作業場での皿洗い		〜 手伝いとあと片付け……
55	人気のない教室で暖炉の掃除をしているベッキー		〜 今度は石炭を運んだり、暖炉のお掃除……
56	地下作業場での洗濯		〜 それから、一般の生徒さん達の洗い物の
58	裏庭で靴をみがく		〜 〜 お洗濯からアイロン掛けに靴磨き……

59	手前から奥へ歩いていくベッキーの足　三Fの廊下	お嬢様方の夕食のあと片づけが終って 自分の屋根裏部屋に帰れるのは」
60	階段を昇るベッキー	
	―O・L―	
61	セーラの髪をすくマリエット	マリエット「……もう、夜の十二時を過ぎているのではございませんかしら」 セーラ「そうだったの…… （低い声で）私、あの子の事がずっと気にかかっていたのよ……」
62	セーラ	
63	ラヴィニア達の部屋 着換えているラヴィニアたち	
64	鏡の前で身づくろいするアーメンガード その前へ強引に割り込むラヴィニア 鏡に写して見るラヴィニア フンといった調子で整へ始めるラヴィニア	アーメンガード「あたし、まだ終ってないの…」 ラヴィニア「フン……あんた、鏡をいくら見たってムダってものよ」 アーメンガード「………」

65	笑うジェシーとガートルード		二人「（笑声）」
67	うらめしそうにラヴィニアを覗いて見る ちらりとアーメンガードを振り返りいじわるげに大きく振舞うラヴィニア 困りはてるアーメンガード		ラヴィニア「（きびしく）アーメンガード…… あんた、私の代りにセーラが代表生徒になって
68	見ているジェシーとガートルード		いい気味だと思ってるんでしょう」
69	アーメンガード、はっとして		アーメンガード「そ、そんな、違うわ……」
70	鏡にうつったラヴィニア		ラヴィニア「判ってるわ、あんたがどう思ってるか位……云っとくけど、代表生徒なんて、ただのミンチン院長の飾り物よ」
71	ジェシーとガートルード 調子にのって		ジェシー「そうよ、そうよ」 ガートルード「ラヴィニアの云う通りよ」

72	それぞれを見て困惑するアーメンガード		アーメンガード「そ、そんな……」
73	ドア開きベッキーがのぞく		
74	ドアの方を見るジェシーとガートルード		
75	オヅオヅと見廻して		ベッキー「あの……」 ラヴィニア「なによ〜 off ノック位しなさいよ！」
76	ベッキー		ベッキー「す、すんません……洗濯物を届けに〜 来ましたが……」
77	つかつかとベッキーの方へ		
78	つかつかと寄るとベッキーの捧げた洗濯物を乱暴に調べる 洗濯物をつかんでつきつける		ラヴィニア「なあに？ このアイロンのかけ方〜 シワだらけじゃないの！」
79.	云いかけるベッキーに洗濯物がたたきつけられる		ベッキー「そ、そんな……」

80	黙って自分のベッドの方へ向うラヴィニア		
81	ラヴィニア、靴を見せ投げつける		ラヴィニア「靴の磨き方だってなってないわ。磨きなおしなさいよッ」
82	洗濯物に当る靴		
83	足元に落ちる靴		
84	睨むラヴィニア		
85	おびえるベッキーしゃがんで靴を拾うベッキー		
86	小気味よさそうに冷笑を浮べるジェシーとガートルード		
87	詫びて出てゆくベッキー		ベッキー「も、申訳けねえス……」
88	ジェシー、ベッキーの口まねをして一同笑う		ジェシー「も、申訳けねえス……」

89	笑う三人		三人「（笑い声）」←〜〜
90	一同の方を見て 再びドアの方を気の毒そうに見るアーメンガード		
91	二階の廊下 ダンス用の服に着換えた生徒たちが、お互いの服にさわり合いお喋りしている		
92	階段横のドアが開いてジェシー、ガートルード出てくる 女王然と気どって出てくるラヴィニア		
93	一斉に振り返る		
94	裾をつまんで近づく		
95	見る一同		一同「（嘆声）」
96	ラヴィニア、優雅に廻って見せる		ラヴィニア「どう、この服……」

		ラヴィニア「お母様がアメリカから送って下さったのよ……今、ニューヨークでは、この服が一番流行してるんですって」
97	一同	一同「（嘆声）」
98	年少組	年少組「（嘆声）」←
99	もっそり出てくる地味な服のアーメンガード 階段の方を見て、あっ！ となる ジェシーも驚く	アーメンガード「あ！ セーラ……」
100	階段を降りて来るセーラ	
101	見上げる一同	一同「（どよめき）」
102	キッと振り仰ぐラヴィニア	
103	おりてくるセーラ	
104	見上げるジェシー、アーメンガード、ガートルード	

105	階段をおりきるセーラ		一同「（どよめき、さざめき）」
106	セーラのまわり人だかりする		（↑同上）
107	とり残された三人		（↑同上）
108	ロッティ		ロッティ「わァ、凄いドレス……〜まるでプリンセみたい！」
109	ロッティの見た眼		（↑同上）
110	ラヴィニア、二人をうながして階段に向う		ガートルード「まあ、あんな素敵な服も持ってたんだわ」 ジェシー「きっと、またパリ仕立てよ」 ラヴィニア「フン……服が立派だって、ダンスが出来なきゃ仕様がないわ……行くわよ」
111	階段を駆け降りて行くラヴィニア、ジェシー、ガートルード セーラを囲む連中も動き始める		
112	アーメンガードやロッテッテたち		

	に囲まれて降りて行くセーラ	
113	降りて行く三人 降りてくるセーラたち	
114	降りる一同　にっこりしている	
117	地下作業場 玉ねぎの皮をむきながら涙をこすり上げているベッキー	ベッキー「（鼻をすすりあげる）」 ←
118	先程の洗濯物と靴	
119	ヒョイととびこんでくるピーター ベッキー、泣き顔をそむける うー?!　となり	ピーター「やア、ベッキー……」 ピーター「どうしたんだい……また叱られたのかい？」
122	首ふるベッキー	
123	前へ歩きはじめるピーター	ピーター「だって、泣いたりして……」
124	泣きながら更に首ふる	ベッキー「な、泣いてなんていないス……こ、この玉ネギの皮が

125	ピーター、足許の洗濯物と靴に気がつき立ち止まって見る		眼にしみただけッす……」
126	ピーターの見た目		
127	ピーター、顔上げてベッキーを見る		
128	皮ムキをつづけるベッキー		
129	見守るピーター		
130	遊戯室		ミンチン「では今日は、ワルツから練習しましょう……ラヴィニア」
131	ラヴィニア		ラヴィニア「はいっ」 ミンチン(off)「あなたはダンスが得意でしたね…」
132	ミンチン		ミンチン「まず、最初に踊ってみせてあげなさい」
133	チラリとセーラを優越の眼で見て前へ……		ラヴィニア「はい」

134	中央へ進み出てポーズをとる		
135	ミンチン、アメリアに合図する		
136	オルガンを弾きはじめる		
137	軽やかに踊りはじめるラヴィニア		
138	廊下 オルガンの音が聞こえている 石炭バケツを持って通りかかる 止る　オケをおいて耳をすます 音楽に耳をすませる		
139	次第にウットリしてくるベッキー		
140	踊りはじめるベッキー 通りかかるモーリー 驚いて立ち停る		
141	モーリー、見つめて		モーリー「ベッキー！」

142	気づかず踊りつづけるベッキー はっと気づくベッキー　停る		モーリー(off)「ベッキー！」
143	ふり返るベッキー		モーリー「なにをしてるんだよ」 ベッキー「ご、ごめんなせえまし……」
144	モーリー、ちょっとあきれて		モーリー「フン、早く院長先生のお部屋の掃除 をおし…… 〜 (off)　暖炉の灰もだよ！」
145	ベッキー		ベッキー「は、はい、ただいま……」
146	オルガンをひくアメリア		
147	舞うラヴィニア		
148	アメリア		
149	踊るラヴィニア BG・PAN		
150	ミンチン		

151	舞うラヴィニア		
152	見ている一同		
153	ラヴィニア		
154	見ている一同		
155	BG・PAN 廻るラヴィニア		
156	階段を昇るベッキー ホウキとバケツを持っている		
157	三階へ昇って来る ミンチンの部屋へ		
158	ドアをはいたり、　暖炉に近づく ベッキー		
159	暖炉の掃除をはじめる		
160	灰が舞いむせるベッキー		

161	むせるベッキー		
162	舞うラヴィニア BG・PAN		
163	ジェシー、ガートルード		
164	見守るミンチン、アメリア		
165	踊るラヴィニア		
166	見守るセーラ		

(前半・おわり)

167	見守るセーラ		Ⓜ（ワルツ〜〜〜〜〜〜〜〜）
168	廻り踊るラヴィニア　音楽終り ラヴィニアも停る		〜〜〜
169	拍手するジェシーとガートルード		S・E（拍手〜〜〜〜〜〜〜〜）
170	優雅に挨拶するラヴィニア　右（ミンチンたち）と正面（生徒）へ		
171	拍手する年少組		
172	頷くミンチン		
173	汗を拭いながら、もとの場所へ戻るラヴィニア		
174	ミンチン　今度はセーラを見て		ミンチン「セーラさん」
175	セーラ答えて		セーラ　「はい」 ミンチン「ワルツは御存知ですね」

176	前へ進み出るセーラ		セーラ「はい。少しですけど、インドにいた時、お父様に習いました」 ミンチン(off)「では踊ってごらんなさい」 セーラ「はい」
177	中央へ進み出て　おじぎをする		
178	冷笑で顔見合わせるラヴィニアたち		
179	左手をあげるミンチン		
180	合図を待つアメリア		
181	音楽を待つセーラ		
182	ハラハラ見守るアーメンガード		
183	見守る年少組		
184	合図するミンチンの手		Ⓜ　（ワルツ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜）
185	オルガンを弾きはじめるアメリ		〜〜〜

	ア	
186	ジェシーたちより　セーラに視線を移すラヴィニア（踊るセーラを眼で追う）T・U 表情がみるみる険しくなる	
187	眼をつむっていたアーメンガード　おそるおそるセーラを見ると……　次第に顔が輝きはじめる	
188	優雅に踊るセーラ（近づく）	
189	身を乗り出して見る年少組	
190	踊るセーラ（遠ざかる）	
191	驚くミンチン	
192	茫然と顔見合わせるジェシーとガートルード　ラヴィニアを見る二人　厳しい表情のラヴィニ	

	193	194	195	198	199	200
ア	踊るセーラ	オルガンをひきながらセーラを見る	三階の廊下　ミンチンの寝室から出てくるベッキー　声の方を見て急いで道具を出してドアを閉め　かしこまっているベッキー　マリエット手前から　ベッキーに近づいて行く	緊張して聞いているベッキー オヅオヅとうかがうように	やさしく頷いて たよりなげにうなづく　右方へ Fr・out するマリエット	マリエット　階段を降りて行く
			マリエット(off)「あ……ベッキー!!」 マリエット「私、これから、院長先生のお使いで出掛けなければいけないの……それで、お嬢様のお部屋のお掃除をあなたに頼むように～ 云われてるんだけど……」	ベッキー「お嬢様の部屋を……」	マリエット「ええ、ジェームスさんとモリーさんには話してあるわ。じゃ、お願いね」 ベッキー「は？　はい」	

201	茫然と立尽して見送るベッキー		
202	セーラのドアへ眼を移し　馬穴をもって手前に歩くベッキー		
203	入口のドアの前へ来て止り 入口で逡巡するベッキー　馬穴を降ろす		
204	ドアのノブにソロソロと手がのびる		
205	セーラの居間　おそるおそるドアを開き　部屋をのぞく		
206	豪華な部屋に茫然となるベッキー　はいる		
207	はいって来て　テーブルに近づき　あたりを見る		
208	ボナパルトの叫び声に驚いて 壁際に逃げ飛ぶ		

209	叫ぐボナパルト		ボナパルト「セーラ　セーラ」
210	驚くベッキー		ボナパルト(off)「セーラ〜セーラ　セーラ」
211	鳥籠の中のボナパルト		
212	ホッとするベッキー　溜息をついて暖炉に向う		
213	暖炉の掃除をはじめる		
214	遊戯室　踊るセーラ		Ⓜ（ワルツ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜）
215	鋭くみつめるラヴィニア		〜〜〜〜
216	踊るセーラ		〜〜〜〜
217	セーラを見ていたミンチンとアメリア　顔見合わせる		〜〜〜〜
218	踊るセーラ		〜〜〜〜
219	踊るセーラ		〜〜〜〜

220	セーラの部屋　羽箒で飾り物をはらう		
221	掃除しているベッキー		
222	置き物を掃除するベッキー		
224	ふと顔を上げ寝室へのドアが開いているのに気付き　掃除の手止る		
225	ドアへ近寄り		
226	寝室をおそるおそるのぞいてびっくり		ベッキー「わァー！　すンごいお部屋！」
227	→PAN　豪華な寝室		
228	そっとはいって来る		
229	ベッドに近づき　羽箒をベッドにおいて恐る恐るクッションを確かめる　ベッドに腰かけ　二		ベッキー「わあ……　フカフカ………」

	度、三度はずませてみる　はっと気がつき立上ると　急いで自分の坐っていた所を払い　ベッドカヴァーのシワをのばす		
231	もと通りになったのを確かめながら身体を起す　衣裳戸棚に気がつく		
232	ベッドを廻って戸棚の方へ　そっと近づくと　ためらったが思いきって開く		
234	驚くベッキー　うっとりと		ベッキー「まあ………」
235	ズラリ並んだ色とりどりのセーラの服		
236	うっとり見ていたが　思わず手が伸び、その一つをとり出して胸に当ててみる		
237	戸棚の鏡にうつしてみる		

	鏡に向ってプリンセス風の挨拶をしてみたりしていたが、そのうち踊りはじめる
238	踊るベッキー（近づく）
239	ジュータンの上で踊るベッキー（遠ざかる）
240	踊るベッキー
241	まわる室内
242	踊るベッキー　ベッドに足許をとられ　ベッドに仰向けにひっくり返る　はっと我にかえり…
243	服を見て我に帰る　あわてて立ち上り
244	小走りで戸棚へ向う
245	ドア開いてセーラの居間へあわ

	てて戻ってくるベッキー　バタンと閉めて　やれやれ見つからなくって良かったと思い入れ後前へ……		
248	T・U　ゆり椅子の上のエミリー		
250	椅子から抱き上げる		ベッキー「まあ、なんて可愛い人形……」
251	エミリーをしばらく眺め　抱きしめて　あやすようにゆすりはじめる		ベッキー「（鼻歌）」
252	揺り椅子に腰をおろし　椅子を揺らす		
253	ベッキーの鼻歌が途絶え　次第に眠がトロンとしはじめる T・U　揺れる椅子が次第に停りかける　コクンと眠りにおちるベッキー		

254	その儘　動かなくなる		
255	一階の廊下　振鈴が鳴る　ノッソリと歩くシーザー		S・E　（振鈴〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜）
256	遊戯室の前　ドアが開きセーラを囲んだアーメンガード　ロッティたちが出て来る　別の出口にラヴィニア　ガートルードジェシーが立止っている		アーメンガード「上手ねえダンス」 ロッティ「そうよ、ラヴィニアよりうまいわ。ね、私にも教えて！」 セーラ「ええいいわよ、ロッティ」
257	セーラたちを見送っているウヴィニアたち		
258	三階　独り上ってくるセーラ		
259	居間のドアの前へ来て開ける		
260	はいろうとして部屋の中を見てはっと立停る		
261	バケツとホウキ		

262	床に落ちている羽根箒　エミリーを抱いたベッキーがずり落ちそうになって眠っている		
263	不審の表情から笑顔に変る　ソーッとドアを閉めて中へ入る		セーラ　「まあ！」
264	そっと近づいてのぞきこむ		
265	軽い寝息を立てて、眠っているベッキー		
266	微笑みでのぞきこんでいるセーラ　ボナパルトの声に　そちらを見る　駆け出す		ボナパルト「セーラ　セーラ」
267	叫ぶボナパルト		ボナパルト「セーラ　セーラ」 セーラ　「静かにしてあげて……
269	餌入れを取出しながらベッキーの方を見て		〜 きっと、ひどく疲れているのよ……
270	餌袋から餌を移し		〜〜〜 そっと寝かしておいてあげなきゃだめ…

	籠の中へ入れる　餌を食べはじめるボナパルト　立ち上りベッキーの方を見てから寝室へのドアに向う		いいこと、ボナパルト」
274	人形（エミリー）がグラリと揺れて落ちる		
275	ベッキーの足許の床へ落ちるエミリー		
276	はっと動きをとめて見るセーラ		
277	トロンと半分眼を開くがまた閉じる		
278	そっと近づくセーラ		
279	エミリーを抱きあげるセーラ		
280	立ち上るセーラ		
281	ベッキーの眼　再びトロンと開		

	く		
282	（波ガラスO・L）ボンヤリ写っているセーラのシルエット次第に鮮明になり　セーラの姿になる		
283	ハッと見開かれるベッキーの眼		
284	ガバと立上る 慌てて左右を見渡し		ベッキー「お、お嬢様……」
285	椅子の上を払って　横歩きに出て行こうとする		ベッキー「も、申訳けねえス……うっかり坐っちまって…… ごめんなさいまし」
286	床の羽根箒を蹴とばし		
287	よろめくベッキー		
288	ハッとなるセーラ		
289	しゃがんで羽根箒を拾い　バケツと箒をとって逃げるように、		ベッキー「お嬢様、ごめんなさいまし……」

No.	画面		台詞
	ドアの方へ向う		
290	呼びとめるセーラ		セーラ　「あ、待って〜ベッキー！」
291	ビクンと振返るベッキー		ベッキー「へ……？」
292	微笑みながら近づく		セーラ　「ベッキー……そんなに慌てて帰らなくったっていいでしょう」
293	ベッキー		セーラ(off)「も少しここにいて」 ベッキー「そ、そんな……」
294	左手前へFr・out		セーラ　「お仕事、もう終ったんでしょ」 ベッキー「え、ええ」 セーラ　「じゃあ、しばらくここにいられるわね。さ、どうぞ坐って」 ベッキー「だ、だども」
295	暖炉の脇のテーブルから銀盆を持って来る		セーラ　「心配なんか全然しなくっていいのよ…」
296	部屋中央の円卓に盆を置き		〜〜〜 折角来て下さったお客様ですもの。さ、

	ベッキーにすすめる（盆の上に銀蓋の菓子皿とボンボン入れ）	お菓子をいかが？」 ベッキー「あの、ほんとに坐ってもいいスか」
297	セーラやさしく	セーラ「ええ、どうぞベッキー」
298	（バケツやほうきを戸口に置いて）戸口の方から歩いて来ておずおずと椅子の端の方に坐る セーラも坐る	ベッキー「あの、私のこと、ほんとに怒ってねえスか？」
299	セーラ	セーラ「全然……お客様が来てくれた事を喜んでいるのよ」
300	ベッキー	ベッキー「あの……院長先生にも……」
301	お菓子皿の銀蓋をとるセーラ	セーラ「大丈夫、誰にも云いはしないわ……さ、遠慮なくどうぞ」
302	皿を見てびっくりするベッキー	ベッキー「ウッヘーッ！」
303	色とりどりのお菓子	
304A	チラとセーラの方をうかがい	

	おずおずと手をのばし止る　セーラを見る		
304B	やさしくうなづくセーラ		
304C	コクンと頭を下げ口に運ぶ		
305	一瞬　眼を丸くして叫ぶ　慌てて　口をおさえる　目を白黒して		ベッキー「ひゃァ、なんてうめえ…… ウッ！ のみこんじまったス」
306	ボンボン入れの蓋をとって		セーラ「よかったら、もっと召し上って…… ボンボンもいかが……」
307	美しいボンボン　キラキラ		
308	のぞきこむベッキー 一つ手にとって（包み紙があればとって）口に入れる　至福の表情		ベッキー「うわァ！　きれい」
309	うれしそうに見るセーラ		

310	ベッキー		ベッキー「あの、おきれいな服ッすねえ」
311	ちょっと服を見て、又ベッキーを見る		セーラ「あら、これ……?! お父様が択んで下さったの……とても好きな服よ」
312	ベッキー		ベッキー「私、前に田舎でプリンセス様のお通りを見たス…… お嬢様を見てると、あの時のプリンセス様にそっくりで…」
313	セーラ		セーラ「まあ……私、自分をプリンセス様みたいだなんて思った事は一度もないのよ」 ベッキー「え……」
314	セーラ		セーラ「だって、私もあなたも、同じ女の子でしょ……私が今のセーラで、あなたが今のベッキーだなんて」
315	口にもって行こうとした手を止めて		セーラ(off)「生れた時のただの偶然だと思うの」 ベッキー「グウゼン……?」
316	セーラ!		セーラ「そうよ……だって、もしかしたら 〜

317	ベッキー　きょとん		〜私があなたで、あなたが 〜私に生れてたかも知れないでしょ」
318	セーラ		
319	ベッキー　こまった表情		ベッキー「そ、そんな　お嬢様」
320	室内全景		セーラ　「でもね。私、時々、他の誰かになったつもりになる事があるの…… 〜例えば、シンデレラになったつもりとか……あのお話、聞いててくれたでしょ」
321	セーラ		
322	ベッキー		ベッキー「は、はい……私、自分が本当の灰かぶり姫になったような気がして…… 〜あとで独りで泣いてしまったス」 セーラ(off)「まあ……でも、ベッキー 〜あのあとシンデレラはとても幸せになれるのよ」
323	ベッキー		
324	セーラ		
325			ベッキー「ほんとスか……私、おとぎ話なんて、

No.	画面		セリフ
	ベッキー　身をのり出し		聞いた事もねえスから……」 セーラ（微笑）「じゃ、あのあとのお話をしてあげましょうか」 ベッキー「は、はい」
326	暖炉の上の時計		セーラ(off)「シンデレラは、台所で毎日辛い仕事を……」
327	立上るベッキー		ベッキー「いけねえス……私もう台所へ帰らないと、また叱られてしまうス」
328	セーラも立上る		セーラ「まあ折角来て下さったのに……　そうだわ、これから毎日お仕事が終ったら、来て下さらない」 ベッキー「え……」
329	セーラ		セーラ「そうすれば、お話のつづきが出来るわ」
330	立去りかけるベッキーに		ベッキー「は、はい、喜んで……」 セーラ(off)「あ、待って…… 〜 お菓子を……」
331	菓子を紙包みにして		

332	渡そうとするセーラ 無理におしつける		ベッキー「こ、こんなに勿体ねえス」 セーラ「いいのよ、ベッキー。さ、どうぞ」
333	菓子包を胸に抱き		ベッキー「有難うございまス……　私……もう平気ッす……　石炭桶がいくら重くたって……　台所でいくら怒鳴られたって、我慢出来ます。……だって、こんなに親切にして下さるお嬢様がいらっしゃるんですから」
334			セーラ「ベッキー」
335	紙包みをエプロンのポケットに入れ　ほうきとバケツを持って何度も頭を下げながら出て行く		ベッキー「じゃア、有難く頂戴しますです」
336	大セル　じっと見送るセーラ F・O		セーラN「気の毒なベッキー……　でも、あんなに喜んでくれたなんて……私は、やっとベッキーと話し合えた事で、胸の中が温くなるのを感じていました」

＜おしまい＞